

豚アクチノバシラス・ブルロニューモニエ感染症（1型部分精製・無毒化毒素）  
（酢酸トコフェロールアジュバント加）不活化ワクチン（シード）

## 劇薬 動物用医薬品 ポーシリス APP-N 使用説明書

使用前に必ず本説明書を読み、注意事項を守って使用して下さい。

### 製法及び性状

本剤は、アクチノバシラス・ブルロニューモニエ2、7及び10型菌の培養上清を不活化し、濃縮・精製させて得たApx I、Apx II及びApx IIIトキソイドとアクチノバシラス・ブルロニューモニエ1型菌の培養菌体を不活化した後、濃縮・精製させて得た菌体外膜蛋白（OMP）を混合し、さらにアジュバント、乳化剤、消泡剤、保存剤、LPS吸着剤、等張化剤及び溶剤を加え乳化し、小分け分注したものです。本剤は、白色不透明、水様の均一な懸濁液で、pHは6.0～7.0です。

### 成分及び分量

小分製品 1ペットボトル 100 mL (50頭分) 中		
アクチノバシラス・ブルロニューモニエ	Apx I トキソイド（シード）	2,500 単位
アクチノバシラス・ブルロニューモニエ	Apx II トキソイド（シード）	2,500 単位
アクチノバシラス・ブルロニューモニエ	Apx III トキソイド（シード）	2,500 単位
アクチノバシラス・ブルロニューモニエ	菌体外膜蛋白（OMP）（シード）	2,500 単位
トコフェロール酢酸エステル		7.5 g
ポリソルベート80		3.0 g
シメチコン		0.005 g
ホルマリン		0.054 g
ポリミキシンB硫酸塩		0.3mg以下
塩化ナトリウム		0.55 g
精製水		残 量

### 効能又は効果

豚のアクチノバシラス・ブルロニューモニエ血清型1,2,5,7,9及び10型菌感染症（胸膜肺炎）の発症防御。

### 用法及び用量

ワクチンの2mLを約6週齢以上の豚に4週間隔で2回、頸部筋肉内に注射する。

### 【一般的注意】

- (1) 本剤は要指示医薬品であるので獣医師等の処方せん・指示により使用すること。
- (2) 本剤は定められた用法・用量を厳守すること。
- (3) 本剤は効能・効果において定められた目的にのみ使用すること。
- (4) 本剤はシードロットシステムにより製造され、国家検定を受ける必要のないワクチンであるため、容器又は被包に「国家検定合格」と表示されていない。

### 【使用者に対する注意】

誤って人に注射した場合には、患部の消毒等適切な処置をとること。誤って注射された者は、必要があれば医師の診察を受けること。その際、動物用油性アジュバント加ワクチンを誤って注射されたことを医師に告げるとともに本使用説明書を医師に示すこと。

### 本ワクチンの成分の特徴

微生物名	抗 原		アジュバント	
	人獣共通感染症の 当 否	微生物の 生・死	有無	種 類
アクチノバシラス・ブルロニューモニエ Apx I トキソイド	該当しない	死	有	トコフェロール 酢酸エステル
アクチノバシラス・ブルロニューモニエ Apx II トキソイド	該当しない	死		
アクチノバシラス・ブルロニューモニエ Apx III トキソイド	該当しない	死		
アクチノバシラス・ブルロニューモニエ 菌体外膜蛋白	該当しない	死		

本ワクチン株は、不活化されており感染性はない。  
本ワクチンに関するお問い合わせは下記までお願い致します。  
松研薬品工業株式会社 〒184-0003 東京都小金井市緑町5丁目19番21号  
TEL: (042) 381-0075 FAX: (042) 381-0344

裏面へ続く

表面より続く

### 【豚に対する注意】

#### 1 制限事項

- (1) 本剤の注射前には対象豚の健康状態について検査し、重大な異常（重篤な疾病）を認めた場合は注射しないこと。ただし、豚がアクチノバシラス・ブルロニューモニエに感染するおそれがある時はこの限りでない。その場合、注射の適否の判断を慎重に行い、対応すること。
- (2) 対象豚がいずれかに該当すると認められる場合は、健康状態及び体質等を考慮し、注射適否の判断を慎重に行うこと。
  - ・発熱、咳、下痢、重度の皮膚疾患等臨床上異常が認められるもの。
  - ・疾病の治療を継続中のもの又は治療後間もないもの。
  - ・交配後間がないもの、分娩間際のもの、又は分娩直後のもの。
  - ・明らかな栄養障害が認められるもの。
  - ・他の薬剤投与、導入又は移動後間がないもの。
- (3) 投与後の制限事項
  - ・本剤の注射後、激しい運動は避けること。
  - ・本剤の注射後、少なくとも2日間は安静につとめ移動等は避けること。

#### 2 副反応

- (1) 本剤の注射後、発熱、行動緩慢、震え、食欲不振、嘔吐（満腹な豚に注射した場合）又は注射局所の腫脹が認められることがあるが、これらの症状は注射後24時間以内には消失する。
- (2) 副反応が認められた場合は、速やかに獣医師の診療を受けること。副反応に対して適切な処置を行うこと。

#### 3 相互作用

本剤には他の薬剤（ワクチン）を加えて使用しないこと。

#### 4 適用上の注意

- (1) 注射部位を厳守すること。
- (2) 使用時にワクチンを室温に戻すこと。
- (3) 注射器具は滅菌又は煮沸消毒されたものを使用すること。薬剤により消毒した器具又は他の薬剤に使用した器具は使用しないこと（ガス滅菌によるものを除く）。なお、乾熱、高圧蒸気滅菌又は煮沸消毒等を行った場合は、室温まで冷えたものを使用すること。
- (4) 注射器具（注射針）は原則として1頭ごとに取替えること。
- (5) 注射部位は消毒し、注射時には注射針が血管に入っていないことを確認してから注射すること。
- (6) ワクチン容器のゴム栓表面を消毒し、滅菌済みの注射針をゴム栓から刺し込み、ワクチンを注射器内に吸引して使用すること。ゴム栓を取外しての使用は、雑菌混入の恐れがあるので避けること。

#### 【取扱い上の注意】

- (1) よく振り混ぜてから使用すること。また使用中にも時々ワクチンを振盪すること。
- (2) 外観又は内容に異常を認めたものは使用しないこと。
- (3) 使用期限が過ぎたものは使用しないこと。
- (4) 一度開封したワクチンは速やかに使用すること。使い残りのワクチンは雑菌混入や効力低下のおそれがあるので、使用しないこと。
- (5) 使い残りのワクチンは紙等で吸い取り可燃物として処分し、また容器は地方公共団体条例等に従い処分すること。
- (6) 使用済みの注射針は、針回収用の専用容器に入れること。針回収用の容器の廃棄は、産業廃棄物収集運搬業及び産業廃棄物処分業の許可を有した業者に委託すること。

#### 【保管上の注意】

- (1) 小児の手の届かないところに保管すること。
- (2) 直射日光、加温又は凍結は、本剤の品質に影響を与えるので避けること。

### 貯法及び有効期間

- (1) 2～8℃に保存する。
- (2) 有効期間は、製造後3年間である（最終有効年月は外箱及びラベルに表示）。

### 包 装

100 mL（50頭分）のペットボトル 1本又は10本

**注意** 獣医師等の処方せん・指示により使用すること。

製造販売元 松研薬品工業株式会社

〒184-0003 東京都小金井市緑町5丁目19番21号  
TEL: (042) 381-0075 (代表)

総発売元 株式会社インターベツト

〒102-8667 東京都千代田区九段北1-13-12  
TEL: (03) 6272-1099